

# はるか わたり歴史通信「悠」

わたりちょうりつきょうどしりょうかん  
巨理町立郷土資料館

## 収蔵資料展を開催します！

2月22日(土)から第27回収蔵資料展を開催します。今回は令和3年度に郷土資料館に寄贈された、結婚式で使用された九谷焼の飲食器や大正時代の少年少女向けの雑誌など約140点を展示します。

今回は、出展資料の中から1点を先がけて紹介します。

### 【**わたりひろく** 巨理秘録】

この資料は万延元年(1860)に刊行された巨理伊達家に関する記録書と思われます。天和2年(1682)に病氣中の4代領主基実が記した、自身の跡継ぎについて仙台藩へ願い出る覚書から始まり、基実死後に巨理伊達家の家臣団が①中村宗氏の養子入り②領地の維持を藩に訴えた天和の訴願に関する書状などがまとめられています。

当時の仙台藩では跡継ぎがない場合、領地半減の取り決めがありましたが、巨理伊達家の訴えは聞き届けられ、領地は減らされることなく宗氏(のちに実氏と改名)が5代領主となりました。

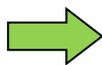
詳しい内容は展示にて改めて紹介しますので、興味を持たれた方は、ぜひ収蔵資料展に足をお運びください！

期 間：2月22日(土)～5月11日(日)  
会 場：企画展示室  
観覧料：無料



## バーチャルツアーで巨理の文化財をめぐるろう！

3Dの空間内を、360度自由に見ることができるのがバーチャルツアーです。巨理町HP「ぶらっとわたり」では、町の文化財をバーチャルツアーで公開しています。パソコンやスマートフォン、タブレット端末から巨理の歴史・文化をめぐるツアーをお楽しみください！郷土資料館HP内の矢印の場所をクリックすると、「ぶらっとわたり」の専用ページに移動します。現在は悠里館・稱名寺・湊神社の3か所を公開しています。4月からは大雄寺も追加公開予定です。



ぶらっとわたり (郷土資料館バーチャルツアー)

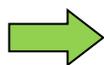


次号の「わたり歴史通信『悠』」は、4月に発行する予定です。  
郷土資料館、図書館、各公共施設の窓口に置きますのでご覧ください。

# ふるさと巨理の偉人・伊達邦成のマンガ

みなさんは「マンガふるさとの偉人」シリーズをご存じでしょうか。郷土への興味関心向上を目的に制作された、郷土ゆかりの偉人マンガです。令和5年度、巨理町では日本財団・B & G財団(公益財団法人)助成事業として『北海道へ渡った巨理伊達家の殿様 伊達邦成』を制作しました。邦成は巨理伊達家第15代当主であり、戊辰戦争の敗北後に家臣団と共に北海道に移住・開拓し、現在の北海道伊達市の基礎をつくった“巨理の偉人”です。

このマンガは非売品ですが、図書館や郷土資料館のほか、町HP上で読むことができます。1ページのバーチャルツアーと同じように、矢印の場所をクリックするとマンガ全編が表示されます。興味のある方は、ぜひご覧ください！



マンガふるさとの偉人  
『北海道へ渡った巨理伊達家の殿様 伊達邦成』



## 『成実記』を読んでみよう！（４）

『成実記』特集の4回目です。『成実記』の大部分の記述は慶長5年(1600)の白石城攻めで終わりますが、ほかの資料からわかっている寛文13年(1636)の伊達政宗死去までの伊達氏の動きについて、引き続き紹介したいと思います。

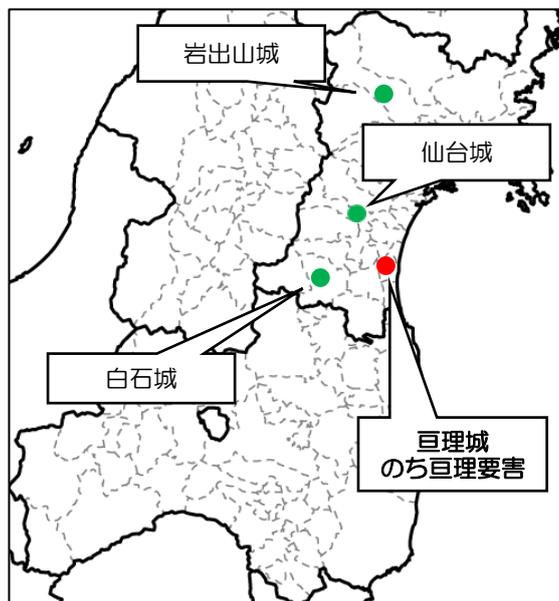
### 仙台藩の成立

慶長6年、徳川家康から許可を得た政宗は、仙台城を築き、居城を岩出山から移して仙台藩を興しました。翌年には新たに獲得した白石城に片倉景綱を配置し、景綱が治めていた巨理城を伊達成実に託しました。

慶長18年、政宗は支倉常長を中心とする使節団一行(慶長遣欧使節)をスペインなどへ派遣しました。日本人がヨーロッパへ政治外交使節を派遣したのは史上初めてのことでした。慶長19・20年には大坂の陣に出兵し、豊臣軍と戦いました。

天下泰平の世になった後の政宗は、仙台藩の発展に力を注ぎました。のちに貞山堀と呼ばれる運河を整備したほか、近江国(現在の滋賀県)から招いた技師の川村重吉(孫兵衛)に石巻港を設けさせ、北上川流域から海路で米を江戸まで運ぶ体制を整えました。また、大崎八幡宮・瑞巖寺(国宝)、鹽竈神社・陸奥国分寺薬師堂(国の重要文化財)などを建造しました。

慶長5年以降の『成実記』の記述はそれまでに比べてやや断片的になりますが、政宗が詩歌会を開き、そこで家臣たちと和歌・漢詩を詠んだ様子が記されています。詩歌会は仙台城や江戸の仙台藩上屋敷でも行われ、江戸で行った会には柳生宗矩(柳生藩主)など他藩の藩主が参加することもあったようです。そして寛文13年、政宗は江戸の屋敷にて70歳で亡くなりました。死去後は息子の忠宗が家督を相続して仙台藩2代藩主になりました。



▲現在の山形・宮城・福島県における各地の城の位置

# 伊達成実の活躍（4）

こちらでは、政宗が亡くなってから少し後、<sup>しょうほう</sup>正保3年(1646)までの伊達成実の様子を紹介します。

## 仙台藩の重鎮・成実

仙台藩成立後の慶長7年、成実が亶理城主に任じられました。亶理城は陸前浜街道(江戸浜街道とも。海岸沿いに陸奥国を縦断する街道)の近くに位置していて、相馬藩(相馬氏)との境に近い防衛上重要な拠点でした。一度は伊達家を出奔した成実を亶理に配置したのは、成実に対する政宗の信頼の表れと考えられます。なお、片倉景綱を白石に移動させた理由は、<sup>よねざわはん</sup>米沢藩(上杉氏)への備えのためといわれています。

成実は、新田開発や城下町づくりなどを推し進めて領地亶理の発展に力を尽くしました。亶理の知行は後に増加し、成実晩年期には当初の600貫が2,000貫(20,000石)にまで達しました。子孫の代にも増加して、最終的な知行は仙台藩内で最多を誇りました。

また、成実は仙台藩一門としても重要な役割を果たしました。大坂の陣への出陣のほか、元和8年(1622)に発生した最上騒動により山形藩主最上氏が領地を没収された際は、最上領内の城を受け取るために派遣されました。

なかでも特筆すべきは、藩主の名代(代理)としてたびたび江戸に赴いたことです。このことから、成実が仙台藩にとって欠かせない存在だったことがうかがえます。政宗が亡くなった翌年の寛永14年、東北地方は大雨に見舞われ、仙台藩を含む各地で洪水の被害が発生しました。2代藩主忠宗は復旧資金として江戸幕府から銀を借用したため、将軍への御礼のため江戸に行くことにしました。このとき、仙台藩士を代表して忠宗に同行したのが成実でした。成実が身をもって体験した合戦の話聞いた将軍徳川家光は、大いに感激したようです。

その後、成実は70歳を過ぎても亶理伊達家の当主を務め、仙台藩の重鎮として忠宗を支えました。正保3年に養子に迎えた宗実(政宗九男)に家督を譲り隠居した4か月後、79歳で亡くなりました。



▲伊達成実霊屋(宮城県指定文化財)

人物ミニ紹介 【伊達忠宗(一六〇〇—一六五八)】  
伊達政宗の次男で仙台藩二代藩主。仙台藩の基盤固めに功績を残した。成実を重用し、病床の成実に対し「養生を心掛け、これからも自分の相談にのってほしい」という旨の書状を送った。

## 三十三間堂官衙遺跡トピック vol4



今回は、史跡内の「地層」についてご紹介します。

史跡内の墓地のことを、地域の方々は通称「あかさからんば」と呼んでいたそうです。「らんば」は墓地のことですが、「あかさか」は何でしょう？これは、<sup>つばきやま</sup>椿山の土が赤みを帯びた茶色だからだといわれます。この土は、<sup>くんが</sup>郡衙(郡役所)が建てられていた地層

「地山」と同じで、粘土質のしっかりした地層です。史跡内には湿状で地盤が緩い箇所もありますが、そのような場所には建物は建てられませんでした。このほか、地盤調査では赤茶色の地層の下に山入層とよばれる<sup>ぎょうかいがん</sup>凝灰岩や<sup>れきがん</sup>礫岩などの層があることもわかっています。

平安時代の人々は地盤の良い土地を選んで役所を置いたのですね。



▲発掘調査でみつかった建物跡と地層

# 1月～3月の郷土資料館イベント情報



## 2/1～2/7 【郷土資料館臨時休館】

資料整理のため、上記期間は臨時休館いたします。ご了承ください。

## 1/11・12、2/8・9、3/8・9 【わたり復興の歩み上映会】 9:00～16:30

東日本大震災からの巨理町復興の様子を映像にまとめた「わたり復興の歩み」(約16分間)の上映を1階エントランスホールで行います。

## 1/16 【伊達成実霊屋御開帳スタンプラリー】 9:00～16:00

霊屋と郷土資料館常設展示の2か所を見学して、スタンプを集めた方には記念品をお渡しします。  
※当日のみ有効

## 2/15～3/16 【巨理伊達家雛人形・つるし雛展】 9:00～16:30 (入館は16:00まで)

巨理伊達家の雛人形と婚礼調度品を常設展示室、つるし雛を悠里館1階エントランスホールで展示します。



## 2/22～5/11 【第27回収蔵資料展】 9:00～16:30(入館は16:00まで)、企画展示室

寄贈資料のほか、地域おこし協力隊の魚住英司さん、久保田沙耶さんの作品を展示します。

※詳しくは町HP・LINE・広報でお知らせします

## 来館者報告

### 常設展

R6.10.1～12.26

- 開館日数…72日間
- 観覧者数…3,169人(1日平均45人)

『巨理町史資料編 第3集 成実記』刊行記念展  
「伊達成実が遺した伊達家の記録～『成実記』を読む～」

R6.10.12～11.30

- 開館日数…40日間
- 観覧者数…1,091人(1日平均48人)

## ⚠️ ご注意ください!

町内遺跡の竹の花横穴墓で落石が発生したため、現在は立ち入りを禁止しています。安全のため、ご理解ご協力をお願いします。

場所：巨理町逢隈鹿島字北鹿島 424



## おわりに

令和7年(2025)2月1日、巨理町は町制施行70年を迎えます。昭和30年(1955)2月1日に  
わたりまち 荒浜町 吉田村 逢隈村の2町2村が合併して現在の巨理町が誕生しました。郷土資料館でも  
町制70周年記念事業を行う予定ですので、今年も郷土資料館をどうぞご利用ください。

巨理町立郷土資料館利用案内

〒989-2351 宮城県巨理郡巨理町字西郷140

Tel: 0223-34-8701 E-mail: kyoudo@town.watari.miyagi.jp

\*開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで) \*観覧料: 無料 ※特別展等有料の場合あり

